

天文 10

「天の川と夏の星座」

夜空には、自ら光る恒星がたくさん集まって、白い帯のように見えるところがあります。これは「天の川」と呼ばれます。今回は、当館プラネタリウム番組の星空案内にも登場する、天の川と代表的な夏の星座について紹介します。

■ 天の川



©鹿児島県天体写真協会

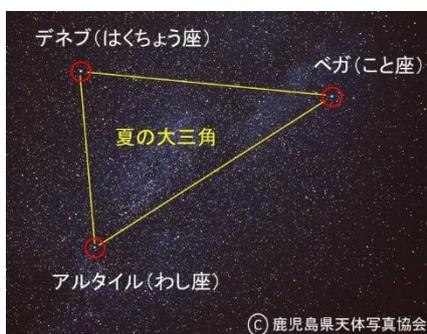
天の川は、「天の川銀河」という銀河の一部です。天の川銀河は、

銀河系とも呼ばれています。私たちが住む地球は、太陽の周りを回る惑星の1つですが、太陽は天の川銀河を構成している約 2000 億個の恒星の1つです。つまり、地球は、天の川銀河の中にあるのです。

天の川銀河の直径は、光の速さ(秒速約 30 万 km)で移動しても、10 万年かかる距離となっています。この広大な広さの銀河の中に、夏の代表的な星座を形作る恒星が含まれています。

それでは、天の川付近にある夏の代表的な星座を紹介していきましょう。

■ 夏の大三角



©鹿児島県天体写真協会

天の川を構成する星の中で、特に輝く3つの星を結んだ三角形を、「夏の大三角」といいます。これらの星は、はくちょう座のデネブ、こと座のベガ、わし座のアルタイルです。

こと座のベガとわし座のアルタイルにまつわる伝承に七夕物語があります。ベガは織姫星、アルタイルは彦星と呼ばれていますが、鹿児島県内で

天文担当 片野田 裕亮

は、ベガを「天女」や「テンチュウアモレ」、アルタイルを「ミカル」や「ミケラン」と呼ぶなど、県内各地でさまざまな呼び方をしています。

■ いて座



©鹿児島県天体写真協会

天の川銀河の中心方向には、いて座があります。この周辺には、M8やM20などの星雲が多く存在しています。2022年には、「いて座A* (エースター)」のブラックホールシャドウが撮影されたことで、これまでブラックホールではないかと推測されていた「いて座A*

」がブラックホールであると証明されました。

■ さそり座



©鹿児島県天体写真協会

夏の代表的な星座の最後はさそり座です。大きなアルファベットの「S」の字を描いたように星が並んでいます。さそり座で赤く輝く星は「アンタレス」です。アンタレスは太陽の700倍の大きさがあり、表面温度が約3500℃

(太陽は約6000℃)の赤色巨星と呼ばれ、星が寿命を迎える最後の姿と言われています。日本では、星座の形が釣り針に似ていることから、さまざまな地域で「魚釣り星」と呼ばれていました。

今回紹介した星座は、街明かりがあっても比較的に見つけやすい星座です。今年は、お盆の頃にペルセウス座流星群も見頃となります。この夏は、星空観察に挑戦してみませんか。

親子で一緒に

夏の星座をさがそう!



見つけたらチェック

- はくちょう座
- わし座
- いて座
- こと座
- さそり座
- イルカ座

